

🏠 企業は日本へ帰ってきた。でも「教室」が足りない

● 上級〜一般教養レベル

投資意欲が戻っても、「供給能力」が追いつかなければ経済は動けない

日本企業の国内投資が再び注目されるようになると、ついこう考えたくなります。

「企業にお金がある。投資したい。なら工場をどんどん建てればいい。」

しかし、実際の経済はそれほど単純ではありません。

企業に資金があっても、

人がいない。

土地がない。

電力が足りない。

建設能力が足りない。

部品が足りない。

物流が足りない。

という状態なら、投資はすぐには実現できません。

つまり問題は、

****「お金があるか」だけではなく、**

「そのお金を受け止める供給能力があるか」**

です。

🏢 でました。「供給制約」

ここで登場するのが、

供給制約

です。

経済では、需要があっても、それに応えられる生産能力が足りなければ、供給量を急には増やせません。

たとえば半導体工場を建てたい企業が急増したとします。

しかし、

工場を建てられる建設会社。

設備を据え付ける技術者。

必要な電力。

超純水。

製造装置。

部品。

物流。

これらの供給能力には限界があります。

つまり、

需要は増えているのに、供給側が追いつかない。
これが供給制約です。

「教室不足」は供給制約のたとえ

戦後、子どもが急増した時代を考えてみます。

子どもが増えた。

学校へ通いたい生徒も増えた。

しかし、

教室。

先生。

校舎。

机。

給食設備。

これらは翌日から倍にはできません。

つまり、

需要が増えた速度に、供給能力の拡大が追いつかない
状態です。

今の国内投資にも、これと似た面があります。

企業が投資したい。

でも、受け止める「教室」が足りない。

だから、

****「企業が戻ってきた」だけでは十分ではない。**

「受け入れる能力を増やせるか」が次の課題**

になります。

電力は典型的なボトルネック

半導体工場や AI データセンターは、大量の電力を必要とします。

企業が工場を建てたいと思っても、

地域の送電網。

変電所。

発電能力。

電力の安定供給。

これらが足りなければ、計画通りに設備を稼働できません。

つまり、

工場投資

だけでなく、

発電・送電・変電への投資

も必要になります。

ここで重要なのは、

一つの設備投資が、別の設備投資を呼ぶ
ということです。

人手不足も同じ

建設需要が増えても、建設作業員が足りなければ工期は延びます。

工場が完成しても、技術者やオペレーターが足りなければ、生産能力を十分に使いません。

このとき企業は、

賃金を上げる。

採用を増やす。

教育する。

自動化する。

ロボットを導入する。

AI を使う。

という対応を取ります。

つまり、

人手不足が、省力化投資のきっかけになる
ことがあります。

「不足」は次の投資需要になる

ここが国内編の非常に重要なポイントです。

不足は短期的には問題です。

しかし、その不足を解消するために新しい投資が始まれば、

供給制約

↓

価格上昇・受注増

↓

企業利益の改善

↓

設備投資

↓

供給能力の拡大

という流れが生まれます。

たとえば、

電力不足

→ 発電・送配電投資。

人手不足

→ ロボット・自動化。

物流不足

→ 倉庫・物流施設。

部品不足

→ 部品メーカーの増産投資。

つまり、

****「何が足りないか」を調べることは、**

「次にどこへ設備投資が向かうか」を探すことでもある**

わけです。

 **ただし、供給制約は価格を押し上げる**

需要が強いのに供給量を増やせなければ、価格は上がりやすくなります。

建設会社に注文が集中する。

建設費が上がる。

技術者が足りない。

賃金が上がる。

材料需要が増える。

材料価格が上がる。

すると企業の投資コストそのものも高くなります。

ここで、

需要増 → 価格上昇

というインフレ圧力が生まれます。

 **価格上昇は「悪いこと」なのか**

ここは慎重に考える必要があります。

価格上昇だけを見れば、家計や企業の負担が増えます。

しかし、価格が上がる理由が、

需要が増え、供給能力が不足している

からだとなれば、その価格上昇は、

「もっと作れば利益が出る」

という企業への信号にもなります。

企業がその信号を見て設備投資を増やせば、

将来の供給能力が高まります。

つまり、
価格上昇が、供給能力拡大のきっかけになることもある
わけです。
ただし、これがうまくいくには条件があります。

利益が残らなければ設備投資できない

仕事が増えた。
価格も上がった。
でも、
材料費。
人件費。
電力料金。
金利。
がそれ以上に上がれば、企業に利益は残りません。
だから重要なのは、
受注増ではなく、適正な粗利が残ること
です。
利益が残れば、
設備を増やす。
人を採る。
教育する。
研究開発する。
という次の投資ができます。
ここで、前の区画の、
売上 → 粗利 → 利益 → 次の投資
という流れとつながります。

中小企業にとっては、再び大きな決断

大企業が国内へ工場を建設する。
すると周辺の中小企業へ、
「生産能力を増やしてほしい」
という要求が来るかもしれません。
しかし中小企業にとって設備投資は大きな決断です。
新しい機械を買う。
借入金を増やす。
人を採用する。

給料を上げる。

工場を広げる。

でも、

その需要が 10 年続く保証はありません。

つまり、

かつて海外進出が大きなリスクだったように、

国内回帰に対応する設備投資も、またリスク

です。

 **一時的な需要なら、企業は投資をためらう**

企業は、

「注文が増えた」

だけでは大型投資を決断しません。

その需要が、

一時的なのか。

数年間続くのか。

構造的に続くのか。

を考えます。

もし一時的なブームなら、大きな設備投資をすると、需要が消えたあと過剰設備が残ります。

だから、

設備投資が本格化するには、企業が将来需要に自信を持てること

が重要です。

 **でました。「ボトルネック」**

供給制約の中でも、全体の成長を止める一番弱い部分を、

ボトルネック

と呼ぶことがあります。

瓶の中にたくさん水があっても、出口が細ければ一度に出せる量は限られます。

経済でも、

工場用地はある。

人もいる。

資金もある。

でも、

電力だけ足りない。

なら、電力がボトルネックです。

逆に、

電力はある。

土地もある。

でも、

建設人材が足りない。

なら、人材がボトルネックです。

だから重要なのは、

「日本には何が足りない？」を具体的に見ること
です。

 **NIGHT FLIGHT** では「不足」をレーダーにする

ここから、今回集めてきた市場データともつながります。

半導体工場が増える。

では次に何が必要になる？

電力。

電線。

建設。

水処理。

化学材料。

物流。

自動化。

金融。

住宅。

株式市場では、実際の利益が出る前に、

「次に必要になるもの」

へ資金が向かうことがあります。

だから株価は、

供給制約の解消先を探す偵察機

として使うことができます。

ただし株価だけでは証明になりません。

その後、

受注。

設備投資。

粗利。

営業利益。

雇用。

賃金。

を確認します。

ここから「良いインフレ」の話へ

供給制約が強くなる。

価格が上がる。

賃金も上がる。

企業が設備投資する。

生産能力が増える。

この流れがうまく回れば、

単なる値上げではなく、経済の能力そのものが大きくなる

可能性があります。

反対に、

価格だけ上がる。

賃金は上がらない。

設備投資もしない。

供給能力も増えない。

なら、家計が苦しくなるだけです。

つまり、

大切なのは、価格上昇のあとに何が起こるか

です。

「教室不足」を数字で確認するなら

この問題を実際に検証するなら、

たとえば、

設備投資額

機械受注

建設工事費

人手不足感

賃金

電力需要

設備稼働率

企業の設備投資計画

受注残

などを組み合わせて見ます。

一つの数字だけではなく、

「需要は強いのに、供給能力が足りていない」という形が複数の数字に表れているか

を確認します。

🌟 上級〜一般教養レベルのポイント

企業が日本へ戻ってきた。

投資する資金もある。

それだけでは工場は増えません。

必要なのは、

人材

電力

土地

建設能力

設備

材料

物流

などの供給能力です。

これらが不足すると、

供給制約

が起きます。

しかし、その不足を解消するために設備投資が始まれば、

不足

↓

価格・受注増

↓

利益

↓

設備投資

↓

供給能力拡大

という循環が生まれる可能性があります。

🔗 そして次の「？」へ

企業は戻ってきた。

でも教室が足りない。

では、

その教室を増やす過程で物価が上がったら、それは悪いインフレなのでしょうか？

それとも、

賃金・利益・設備投資まで一緒に増えるなら、別の意味を持つのでしょうか？

ここから、次の区画へ進みます。



「インフレ文化——日本に『値段』が戻る」

値上げだけでは日本復活ではない。

見るべきなのは、

価格

粗利

賃金

投資

と一緒に動くか。

次の NIGHT FLIGHT では、ここを追いかけます。



寄り道研究所

NIGHT FLIGHT SPECIAL II 【国内編】



上級〜一般教養レベル解説でした。



次の寄り道へ、ご搭乗ください。